

免疫血清分野

尿一般分野

病理解分野

細胞診分野

血液一般分野

生化学分野

先天性代謝異常分野

細菌分野

# 細胞診検査の提出用容器

～より正しい判定のために～

検査科病理・細胞診係（細胞診担当）

## はじめに

細胞診の正しい判定には、適切な標本作製が必要です。適切な標本作製には、検体の採取および提出状態（標本の固定または検体の保存状態）が重要になります。今回は、細胞診専用容器を中心に検体提出時の注意点についてお伝えします。

## 1. 塗抹標本(スライド標本) 室温保存

塗抹標本は擦過、穿刺などで得られた細胞を採取後直ちにスライドに塗抹し適切に固定することが重要です。細胞診では湿固定と乾燥固定があります。

### ○湿固定(パパニコロウ染色)

塗抹後直ちにサイトロップを全面に滴下(5～7滴)→自然乾燥

### ○乾燥固定(ギムザ染色)

塗抹後直ちに扇風機や冷風ドライヤーなどで急速に乾燥

### (1) 婦人科材料：湿固定(1枚)

頸管粘液や血液、分泌物が多い場合は採取細胞量が不十分で不適正標本になることがありますので採取前に綿球等で除去してから細胞採取してください。

### (2) 気管支擦過：湿固定(2～3枚)

### (3) 穿刺吸引材料(乳腺、甲状腺、リンパ節など)

湿固定(1～2枚)、乾燥固定(1～2枚)



\*\*\*\* スライドへの記入方法 \*\*\*\*

鉛筆でご記入ください。

①患者氏名(フルネーム)

②乾燥固定がある場合は固定の種類  
湿・乾(または pap・MG)

③材料名(2材料以上をご提出の時)

## 2. 検体(専用容器)

検体は専用容器でご提出ください。容器には氏名と材料名を記入してください。氏名は容器に直接記入するか、ラベルシールの貼付をお願いします。

### 1) LBC(液状検体) 室温保存

#### (1) 婦人科(子宮腔部・頸部、膣断端)

- ①綿棒以外の採取器具(ブラシ、スパーテル)を用いて採取してください。
- ②採取器具を容器に入れ、よく細胞を洗い落としてください。
- ③採取器具を取り出し、しっかり蓋を閉め室温保存してください。

#### (2) 口腔材料

標本作製は婦人科と同じです。採取は歯間ブラシを推奨します。

※初めてご依頼いただく場合は、受託条件等の確認が必要です。事前にお問い合わせください。

⑳LBC 容器



### 2) 液体検体(尿、体腔液、胆汁、腓液など)

採取当日中に必ずご提出ください。

#### (1) 泌尿器材料 冷蔵保存

#### (2) 体腔液(胸水、腹水、心嚢液) 冷蔵保存

可能であれば、フィブリンの析出を防ぐため、抗凝固剤を加え、直ちに混和してください。(3.8%クエン酸 Na の場合は10%、ヘパリンの場合は1~10%)

#### (3) 胆汁、腓液 氷冷中保存

消化酵素により細胞変化が生じるため、氷冷中の容器に採取してください。

#### (4) 気管支洗浄液、関節液、髄液 冷蔵保存

※同一材料で、一般や細菌など他の検査と併用される場合は、あらかじめ別々の容器に分けてご提出ください。

㉑細胞診チューブ(液体用)

容器容量30mL

細胞診液体検体提出用



### 3) 喀痰

#### (1) 喀痰 **冷蔵保存**

2～3回うがいをした後に採取してください。喀痰は強い咳と共に下気道から排出されたものがよく、鼻汁や唾液の混入はできるだけ避けてください。直接容器に入れ、採取当日中にご提出ください。

※ティッシュペーパーに包まれたものは乾燥のため検査できません。

#### (2) 蓄痰 **室温保存**

専用容器の袋と説明書を参照のうえ、早朝痰を3日間採取してください。

採取初日より1週間以内でのご提出をお願いします。

㊸滅菌済喀痰容器



㊹蓄痰容器



## おわりに

今回は、細胞診提出用の容器を中心に提出時の注意点をまとめました。

より精度の高い検査結果をお届けするためには、検体の適切な提出や、患者情報の提供が必要となります。今後とも先生方のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

#### 参考資料：

1. 細胞診ガイドライン1-5, 日本臨床細胞学会, 金原出版, 2015
2. 細胞診標本作製マニュアル (泌尿器), 細胞検査士会, 2005
3. 細胞診標本作製マニュアル (体腔液), 細胞検査士会, 2008
4. 総合検査案内2018, 一般社団法人広島市医師会臨床検査センター, 2018

担当：佐々木 美恵 (検査科病理・細胞診係主任)  
監修：西阪 隆 先生 (県立広島病院 臨床研究検査科 主任部長)

\*ウェブページでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>